

11 南部地域活性化プログラムの取組状況について

1 現状と課題

県南部地域では、進学や就職の際における若者の転出により、生産年齢人口が減少し、過疎化、高齢化が進行しています。

このため、「南部地域活性化プログラム(以下「プログラム」という。)」では、若者の雇用の場の確保と定住促進に向けた取組や東紀州地域の観光・産業振興などの取組を進めるとともに、総合的・横断的な事業推進を図ることとしています。

プログラムの取組を推進するため、13市町・有識者・県で構成する「南部地域活性化推進協議会」において、各種取組の進捗状況の共有や事業化の検討・協議を行うとともに、市町等と連携した課題の解決や活性化に向けた取組を進めています。

さらに、東紀州地域においては、地域の資源や魅力を生かした観光振興・産業振興などの取組を、東紀州地域振興公社や集客交流拠点である熊野古道センターおよび紀南中核的交流施設を活用しながら進めています。

南部地域の活性化に向けた課題は多岐の分野にわたることから、知事を本部長とする部局横断組織である「南部地域活性化推進本部」を設置し、庁内関係部局との情報共有等を図るとともに、複数市町の連携した取組等を機動的に支援する「三重県南部地域活性化基金(以下「基金」という。)」を有効に活用しながら実施しています。

2 取組状況について

(1) 若者の雇用の場の確保と定住促進について

① 三重県南部地域活性化基金の活用

基金を活用し、「マーケティングを活用した特産品開発事業」など15事業を実施しており、各事業の詳細は別紙のとおりです。

② 移住交流の取組

三重県南部地域への移住を促進するために、東京に開設された「ええとこやんか三重移住相談センター」を活用して、移住希望者のニーズに合わせた情報提供を行います。

また、田舎暮らし体験ツアーの開催や移住・交流部会での情報共有などにより移住者を受け入れる市町の取組を支援します。

③ 集落支援の取組

南部地域では、集落機能が弱くなっている地域が増えていることから、市町・大学と連携して集落機能を維持するための取組を進めています。

鳥羽市では、四日市大学と連携し住民の主体的な取組の検討を進めます。

南伊勢町、御浜町、紀宝町では、三重大学と連携し、弁当販売に向けたアンケート調査を実施するなど、住民の主体的な取組を支援します。

(2) 東紀州地域の観光・産業振興の取組について

① 熊野古道を活用した取組

熊野古道世界遺産登録 10 周年による賑わいを継続し、次の 10 年につなげていくために、関係者と連携して情報発信や誘客促進に取り組むとともに、熊野古道の価値を次世代につなぐ体制づくりに取り組むことで、交流人口の拡大を図り、地域経済の活性化につなげます。

また、伊勢志摩サミットを活用して、東紀州地域の魅力発信等を進めます。

ア 熊野古道活用促進事業

熊野古道セミナー開催や熊野古道サポーターズクラブによる地域と連携した保全体験、「熊野古道伊勢路ナビサイト」および「熊野古道伊勢路スマホ de スタンプラリー てくてく熊野古道」の実施、小中学生の熊野古道への来訪促進の働きかけなどを行っています。

また、外国人観光客の誘客に向け、多言語パンフレットの作成や熊野古道センターでの案内機能の充実を進めています。

イ 東紀州地域観光消費促進事業

東紀州地域に域外からの誘客を促進し、地域消費の喚起につなげていくため、東紀州地域観光利用券を 7 月 1 日に発売したところ、店頭販売分については既に完売しています。現在、秋の誘客に向け、バスと利用券を組み合わせた旅行商品を販売しています。

② 東紀州地域振興公社、熊野古道センターおよび紀南中核的交流施設を活用した取組

地域と一体になって、総合的に観光振興、産業振興等の取組をさらに進めます。

ア 東紀州地域振興公社

東紀州地域振興公社では、観光振興、産業振興などの取組を総合的に推進する地域のコーディネーターとしての役割を果たすとともに、次の 10 年に向けた熊野古道伊勢路の保全と活用を一層促進します。

観光振興では、都市圏での観光物産展に参加するとともに、産業振興では、都市圏での物産展等への出展など、地域特産品の販路拡大を図っていきます。

イ 熊野古道センター

熊野古道や古道周辺地域の自然・歴史・文化を体感するビジターセンターとして、その魅力を案内する企画展「竹内敏信写真展 ～熊野古道～」、高野山開創 1200 年記念紀伊山地の豊かさと信仰を探る連続講演会の開催など、情報収集、情報発信、集客交流の機能のさらなる充実に取り組みます。

ウ 紀南中核的交流施設

熊野古道体験ツアー等地域資源を活用した体験プログラムの実施などに取り組んでおり、引き続き運営が安定して持続的に展開できるよう、集客交流の充実に向けて支援していきます。

(3) 総合的・横断的な事業推進について

引き続き「南部地域活性化推進本部」などにおいて、南部地域の市町が抱える課題等について情報を共有し、関係部局の施策や基金を有効に活用しながら、活性化に向けた取組を地域活性化局と一体となって実施するなど、総合的・横断的な事業推進を図っていきます。

事業名	関係市町等	取組概要	予算額 (千円)
第一次産業の担い手確保対策事業 紀南農業・農村担い手対策事業	熊野市 御浜町 紀宝町 JA三重南紀	柑橘農家の担い手を確保するため、「三重南紀元気なみかんの里創生プロジェクト協議会」が実施する就業希望者向けの基盤整備や情報発信等に対し支援を行う。 ①定住促進に向けた基盤整備 ・住居の確保(改修費用の補助) ・優良品種園地整備(管理費用) ・経営モデルの検討(資材費) ②就業希望者に向けた就業フェア等での情報発信(6/6、7/11、10/3) ③就業希望者と研修受入農家および産地とのマッチングを図るための農業体験や就業サポーターによる就業体験(8/1～2) 【平成26年度実績】 ・2名の新規就業希望者が1年間の研修開始。 ・就業体験会への参加者のうち2名が1年間の研修を検討。 ・新・農業人フェア 大阪会場出展(於:マドーム大阪)来場者(6名) ・三重県農林漁業就業・就職フェア出展(県総合文化センター)相談者(3人) ・新・農業人フェア 東京会場出展(池袋サンシャインシティワールドインポートマートビル)来場者(3名) ・新・農業人フェア 大阪会場出展(大阪マーチャングイズ・マート)来場者(6名) ・三重・岐阜合同移住相談会実施(中日ビル)来場者(4名) ・住宅確保 2戸/11戸、園地整備30a/40a、マルドリ1ヶ所(8a)	750
移住交流推進事業 田舎暮らし体験事業	尾鷲市 熊野市 大紀町 紀北町	地域への移住を促進するため、尾鷲市・熊野市・大紀町・紀北町が実施する田舎暮らし体験ツアーに対し支援を行う。 ①共通取組 ・田舎暮らし体験ツアーPRチラシ作成(夏・秋版) ②個別取組 ・田舎暮らし体験ツアーの実施 大紀町 8/8～9 7名 尾鷲市 8/1～2 11名、11/14～15 紀北町 9/5～6 中止、10/31～11/1 熊野市 9/5～6 1名、11/21～22 【平成26年度実績】 ・「大紀町田舎暮らし体験ツアー」(20名) ・「紀北でのんびり田舎体験～土地を知るにはまずは“食”から～」(5名) ・「紀北町ほっこり田舎体験ツアー～あなたが決める紀北町体験～」(7名) ・熊野市「熊野の里・農業体験」(3名)	1,098
幹線道路を活用した誘客促進事業	玉城町 度会町 南伊勢町	サニーロードを活用した誘客促進を図るため、玉城町・度会町・南伊勢町が連携して行うサニーロード周辺魅力の発信や広域的な周遊を提案する取組に対し支援を行う。 【事業内容】 ・沿線マップの作成、配布(高速SA、伊勢神宮周辺) ・ノベルティグッズの作成、配布 ・合同物産市「サニー市」の開催 11/14～15 玉城町会場、12/20 南伊勢町会場、1/24 度会町会場 ・PRキャラバンの実施 9/11～13 京都イオン桂川 10/10～11 刈谷ハイウェイオアシス ・モニターツアーの実施 9/6～7 大学生15人 ・サニーロード料理コンテストの実施 9/1～11/13で募集 ・WEBサイトの制作 7/1完成 【平成26年度実績】 ・高速SA、おはらい町、城(ぐすく)等でマップ配布 ・サニーロード沿道マップ(リニューアル版)の作成 ・スタンプ・クーポンイベント展開 ・ノベルティ(3町ゆるキャラ缶バッジ)作成 ・雑誌広告 ・城(ぐすく)へのサニーロード案内看板の設置 ・3町でのサニー市開催 ・11/15・16玉城町会場(2日間で約23,000人来場) ・12/21南伊勢町会場(約4,000人来場) ・1/25度会町会場(約4,000人来場) ・3大都市圏でのキャラバン活動	6,500

事業名	関係市町等	取組概要	予算額 (千円)
伊勢から熊野へ～熊野古道伊勢路魅力発信事業	伊勢市 玉城町 多気町 大台町 大紀町	<p>熊野古道が世界遺産として認められた価値の本質が伊勢から熊野までのすべての道程(約170km)にあることを踏まえ伊勢路沿線の5市町が連携して、伊勢からはじまる「熊野古道伊勢路」の魅力発信に係る取組に対し支援を行う。</p> <p>①共通取組 ・熊野古道伊勢路魅力発信ツアーの実施(8/22[32名]、10/4、11月～12月、2月) ・雑誌等を活用した魅力発信</p> <p>②個別取組:熊野古道伊勢路に関連した地域の魅力を発信する取組 伊勢市:伊勢から熊野へ～朝熊山参詣図作成事業 玉城町:熊野古道出立の地めぐり旅 多気町:熊野古道伊勢路女鬼峠ミステリーツアー 大台町:大台町の歴史街道環境整備事業 大紀町:馬越峠ウォーキングツアー</p> <p>【平成26年度実績】 ①共通取組:「熊野古道伊勢路」魅力発信ツールの作成 ・デザインを統一した「のぼり」の作成・設置 ・熊野古道伊勢路沿線のグルメ・宿泊・お土産マップの作成 ・熊野古道世界遺産登録10周年記念事業(5市町で実施)PRチラシ等の作成 ②個別取組:各市町で実施するリレーイベント 伊勢市:お伊勢参りフォーラム～お伊勢参りと熊野詣～ 玉城町:熊野古道出立の地めぐり旅(11イベント) 多気町:熊野古道伊勢路体感ウォーク(女鬼峠ミステリーツアー) 大台町:大台町の歴史街道の今昔散策 大紀町:大紀町熊野古道ウォーク(三瀬坂峠～瀧原宮)</p>	4,902
東紀州魅力アップ促進事業	尾鷲市 熊野市 紀北町 御浜町 紀宝町	<p>東紀州地域の5市町が連携して展開する熊野古道等を活用した地域の魅力アップを図る取組に支援する。</p> <p>【事業内容】 ・熊野古道伊勢路ツアーバスの運行(10月～3月) ・各峠(登り口、降り口間)の送迎プランの企画(10月中旬～) ・体験メニューの掘り起こし、テーマごとの体験情報整理 ・ガイドブックの作成(1月末配布開始) ・広報活動</p> <p>【平成26年度実績】 ・イオンモール、高速SA・PA、三重テラス、JR大阪駅などにてPR ・ガイドブック作成、各観光物産展等で配布開始 ・ポスター随時掲出(道の駅、自治体、旅行会社、高速SA・PA等)</p>	3,460
子どもの地域学習推進事業	高校生地域人材育成事業	<p>地域を担う人材を育成するため、三重大学の地域戦略センターと連携し、尾鷲高校の2年生を対象に地域から出されたミッションについて高校生が課題解決策を考える取組を支援する。 授業日 6/16、8/25、9/17、11/17</p> <p>【平成26年度実績】 ・昴学園高校で授業実施(計3回) ・南伊勢高校(計2回) ・尾鷲高校(計3回)イキイキフォーラムにも高校生26人が参加し、発表</p>	
	小学生地域魅力発見事業	<p>次代の地域を担う人材を育成するため、七保小学校(大紀町)・宮川小学校(大台町)の総合学習において、地域の魅力を伝え(地域の自然などの宝物さがし等)、地域への愛着心を育む教育の取組に対し支援を行う。</p> <p>・七保小学校 5月～2月までに計7回の授業を予定 ・宮川小学校 6月～2月まで計6回の授業を予定 ・児童の有志でつくるプロジェクト「七保未来塾」は計4回を予定</p> <p>【平成26年度実績】 ・七保小学校で授業実施(計7回) ・宮川小学校で授業実施(計3回) ・七保未来塾を実施(計3回) ※七保小学校では木工コースターを製作</p>	1,313

平成27年度 南部地域活性化基金の活用状況について

別紙

事業名	関係市町等	取組概要	予算額 (千円)
企業立地セミナー 開催事業	伊勢市 鳥羽市 志摩市 玉城町 度会町 南伊勢町	伊勢志摩地域への企業誘致を促進するため、伊勢志摩地域産業活性化協議会が実施する企業立地セミナーの開催に対し支援を行う。 11/9 東京で実施予定。 【平成26年度実績】 ・2/3:「伊勢志摩地域企業連携セミナー in 関西」開催 場 所:帝国ホテル大阪 出席者:139名	2,000
地域の企業と大 学生マッチング支 援事業	尾鷲市 紀北町	若者の地域産業への理解を深めるとともに就職へとつなげるため、大学生を対象に地域内で操業する中小企業等の現場を訪問し、経営者等の話を聞く場を提供する取組に対し支援を行う。 ・対象 三重大学および立命館大学の学生 38名参加 ・時期 9/14～15に1泊2日で実施 【プレゼン】 尾鷲市:尾鷲名水(株)、夢古道おわせ 紀北町:あおさのり養殖者、ホテル季の座 【見学】 尾鷲市:尾鷲物産(株)、東邦産業(株)、おわせ魚いちば おとと 紀北町:垣善不レッグ(株)、(有)ヤマショー、紀伊ファーム 【平成26年度実績】 ・対象:三重大学および立命館大学(山梨大学)の学生32参加 ・時期:2/17～18に1泊2日で実施 【尾鷲市】 プレゼン:尾鷲名水(株) 見学:(株)やきやまファーム、(株)モクモクしお学舎、東邦産業(株)、尾鷲物産(株) 尾鷲漁協魚市場 【紀北町】 プレゼン:ホテル季の座、(株)ディーグリーン、あおさ養殖者 見学:外湾漁協紀州支所、紀伊ファーム、垣善フレッグ(株) ホテル季の座	675
(新)ふるさと納税 南部まるごと発信 事業	尾鷲市 鳥羽市 熊野市 大台町 玉城町 度会町 南伊勢町 紀北町 御浜町 紀宝町	南部地域の市町が連携して行う、ふるさと納税を促進するための情報を一体的に発信する取組に対し支援を行う。 【事業内容】 ・ガイドブック作成 ・ウェブページ作成 ・PRキャンペーン実施 9/26～27 東京でのふるさと納税大感謝祭 11月下旬～12月上旬 三重テラスでメディア向けイベント ・学習会の実施	4,000
(新)マーケティング を活用した特産 品開発事業	尾鷲市 紀北町	新たな特産品づくりや既存特産品の改良を希望する事業者等を対象に、専門家による商品企画、販路拡大など年間を通じた講座を実施するとともに、地域内外の特産品販売施設等でのPR試食会など市場ニーズを把握するためのマーケティング調査を実施することで、商品のブラッシュアップも行き、さらに売れる商品の開発につなげる。 【事業内容】 ・専門家による商品開発やパッケージデザイン ・マーケティング調査 12月～2月(名古屋、大阪、尾鷲市、紀北町)	3,175
出逢い・結婚支援 事業	伊勢市 鳥羽市 熊野市 玉城町 大台町 南伊勢町 御浜町 紀宝町	少子化対策や定住促進の観点から、市町等が実施する事業に対し支援等を行う。 6/18 担当者会議を開催 【事業実施】 7/4 鳥羽市(32名)、7/26 紀宝町(40名) 10月以降実施予定 伊勢市、熊野市、大台町、玉城町、南伊勢町、御浜町 【平成26年度実績】 ・紀宝町「BBQパーティー」 ・熊野市「熊野古道世界遺産登録10周年記念事業“歩く婚活”」 ・玉城町「ヒービビパーティー2014」 ・大台町「恋活パーティー」	1,350

平成27年度 南部地域活性化基金の活用状況について

別紙

事業名	関係市町等	取組概要	予算額 (千円)
人材育成推進事業	13市町の行政職員 地域おこし協力隊員等	<p>集落の維持・再生など地域住民の主体的な取組をサポートする人材を育成するため、市町職員や地域おこし協力隊等を対象にディスカッションリーダー育成講座を開催する。</p> <p>また、集落支援や地域と大学が連携した取組を行っている優良事例を発表する場を設け、地域人材の更なるレベルアップを図るとともに、交流の場も設け、ネットワークづくりを図る。</p> <p>・開催日 8/27～1/29 計7回 受講者13名</p> <p>【平成26年度実績】 ○ディスカッションリーダー育成講座(計7回、最終報告会も開催) ・講師:慶應義塾大学 飯盛教授、SFC研究所 横瀬上席研究員 ・受講者14名</p>	1,219
地域資源を活用した雇用創出事業	南部地域の事業者	<p>新たな雇用の創出や地域経済の活性化を図るため、地域資源を活用して新しい事業展開や事業拡大を行う事業者に対し補助する。</p> <p>・事業形態:補助金(補助率:1/2) ・補助対象:県南部地域における民間企業、NPO法人等 ※起業後20年未満。</p> <p>・対象経費:新規雇用に係る直接人件費及び当該取組に係る事業費 ・事業期間:2年間、H26年度から継続分のみ ・雇用総数:1人 川口商店(熊野市)</p> <p>【平成26年度実績】 ・川口商店(熊野市)</p>	4,000
(新)南部の輝くライフスタイル発信事業	南部地域の13市町	<p>南部地域で“イキイキ”と暮らす若者にスポットを当て、そのライフスタイルに共感した県内外の若者が、自らを重ね合わせることで南部地域での暮らしをイメージできるようにするとともに、南部地域のイメージアップを図るため、PR冊子の作成、座談会の開催、冊子を活用した情報発信等に取り組み、南部地域のマイナスイメージを払拭し、楽しく暮らすことができる地域であることを発信する。</p> <p>【事業内容】 ・PR冊子作成 ・座談会開催 9/28 サンアリーナ、10/7 熊野古道センター ・動画配信ソフト等による情報発信</p>	5,000
集落等自立活性化推進事業	南伊勢町御浜町紀宝町 鳥羽市	<p>集落機能を維持するため、町・三重大学と連携し、モデル地域において集落が抱える課題に対する地域住民の主体的な取組を支援する。</p> <p>・南伊勢町礪浦地域 住民との話し合いを経て、ウォークラリーを11月に開催予定</p> <p>・御浜町神木地域 住民との打ち合わせを経て、ウォークラリーを10月末～11月上旬に開催予定</p> <p>・紀宝町浅里地域 住民との話し合いを経て、新米の販売を予定</p> <p>鳥羽市・四日市大学(岩崎副学長、小林教授)と連携し、モデル地域である鳥羽1丁目～2丁目において地域が抱える課題に対する地域住民の主体的な取組を支援する。</p> <p>町内会長などの打ち合わせを経て、地元神社のお木曳きに参加(9/6)、能舞台の組み立て(10/4)への参加を経て、11月に合宿を実施予定</p>	2,252

(様式1)

12 指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(平成26年度分)

<県の評価等>

施設所管部名 地域連携部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立ゆめドームうえの(伊賀市ゆめが丘一丁目1番地の3)
指定管理者の名称等	伊賀市、伊賀市長 岡本 栄(伊賀市上野丸之内116番地)
指定の期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ゆめドームうえのの設置目的を達成するために必要な貸館事業及び指定管理者の自主事業の実施に関する業務 ゆめドームうえのの施設等の利用の許可等に関する業務 ゆめドームうえのの利用料金の收受等に関する業務 ゆめドームうえのの施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	H25	H26	H25	H26	
1 管理業務の実施状況	B	B			利用者サービスの水準を保ちながら、委託料のコスト削減を行うなど、施設の効果的、効率的な管理・運営に努めており、適切に業務を実施している。引き続き、設備の保守管理や光熱水費などのコスト削減に努めるとともに、一層の利用者へのサービス向上に期待する。
2 施設の利用状況	C	C			施設利用者数は81,924人、施設利用率は82.8%、競技場(火曜日昼間)利用率は30.1(23.0)%となっている。平成25年度と比較すると施設利用者数(67,518人)は約14,000人増加し、施設利用率(70.8%)は12.0ポイント上回り、競技場利用率(23.0%)は7.0ポイント上回った。前年度と比較し、利用者数、施設利用率も増加したが、目標と比較すると未だ低い利用率であるので、今後も、より一層利用率の向上に向けた取組を強化する必要がある。 (-)は前年数値
3 成果目標及びその実績	C	C			年間施設利用者数:81,924人(107,500人)、施設利用率:82.8%(85.5%)、競技場(火曜日昼間)利用率:30.1%(47.0%)ともに未達成となった。今後も、広報活動等により一層の利用率向上に向けた取組を強化する必要がある。 ()は目標値

※「評価の項目」の県の評価:

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数は81,924人で、平成25年度と比較して約14,000人増加したが、成果目標の107,500人を下回っている。施設利用率は82.8%となり、成果目標を2.7ポイント下回っている。また、競技場(火曜日昼間)利用率は30.1%で成果目標を16.9ポイント下回っている。 施設設備の維持修繕を適切に行い、施設を良好な状態で維持管理している。また、設備の保守管理などのコスト削減に努める等、効率的な施設の管理運営が行われている。 施設の利用申込方法については、伊賀市のホームページおよびパンフレットに掲載するとともに、窓口、電話でのきめ細かな対応を行う等、公の施設であることを十分に意識し、誰もが平等に利用できるよう努めている。 危機管理の取組として、ゆめドームうえの危機管理マニュアルを作成し、災害時の対応に万全を期すとともに、職員を対象にAEDの研修を行うなど利用者の安全確保に配慮した取組が行われている。 ゴミの持ち帰りやゴミの分別による環境保全への取組、職員を対象にした人権研修を実施するなど、県施策との整合を図るとともに、情報公開や個人情報保護への対応など適切な取組が行われている。 <p>以上のように、管理業務については適切に実施され、施設の設置目的である「県民の心身の健全な発達及び体育・スポーツの普及振興を図るとともに文化の向上等」の達成に向け取り組まれている。成果目標については、全項目において未達成となっており、今後も引き続き利用者数の増加及び利用率の向上に向けて、積極的な誘致活動、自主事業の企画・実施、広報等によるPRなどの取組の強化を求めていく必要がある。</p>
--------	--

<指定管理者の評価・報告書(平成26年度分)>

指定管理者の名称: 伊賀市

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 管理運営事業の実施に関する業務

- ・三重県立ゆめドームうえのの維持管理及び貸館事業、自主事業を実施した。
- ・トレーニング室利用登録者については、平成26年度新規登録者375名(前年296名)、更新者504名(前年465名)であり、登録者総数7,956名(前年7,581名)で前年度対比5%増となっている。
- ・自主事業については、県民の健康維持・体力向上を目的に、毎週2回「フィットネス教室」(延べ3,359名)を開催し、エアロビクス、健康体操などのカリキュラムを実施した。
さらに利用登録の促進や、トレーニングメニュー(教室)の紹介、施設紹介を目的として、年2回「フィットネス特別教室」(延べ89名)を開催した。
- ・また、育児時間を楽しく過ごしていただくため、産後の機能・体力回復・体型の改善を目的に、「ママとベビーの3B体操」を5期(延べ932名)にわたり開催した。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・維持管理については、業務仕様書に基づき委託し、施設および設備の適正な管理を実施した。
- ・修繕については、照明器具安定器取替、可動席部品取替、トイレ部材取替、軽運動室ブラインド修繕を行った。

③ 県施策への配慮に関する業務

- ・三重県立ゆめドームうえのの管理に関する基本協定書第6条に基づき、ゴミの持ち帰りを徹底するとともに、ゴミの分別を実施し、リサイクルに向けた環境保全に取り組んだ。
- ・職員研修については、受付業務を委託している(公財)伊賀市文化都市協会により、人権、接遇、AED操作等の研修を実施した。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・平成26年度中の情報公開の開示請求はなかった。
- ・個人情報の保護については、その重要性を認識し、管理業務の実施にあたっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報を適切に取り扱っている。

⑤ その他の業務

(2) 施設の利用状況

施設別利用件数及び利用人数は以下のとおり。

	平成24年度実績		平成25年度実績		平成26年度実績		対前年度比	
	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数
第1競技場	398件	39,297人	344件	30,639人	351件	31,190人	102.0%	101.8%
第2競技場	404件	23,392人	353件	14,295人	427件	28,149人	121.0%	196.9%
軽運動室	411件	6,965人	250件	4,094人	304件	4,177人	121.6%	102.0%
トレーニング室	6,938件	6,938人	6,816件	6,816人	7,136件	7,136人	104.7%	104.7%
第1会議室	200件	1,692人	207件	1,873人	88件	1,043人	42.5%	55.7%
第2会議室	382件	4,243人	359件	4,467人	375件	4,707人	104.5%	105.4%
第3会議室	254件	4,608人	271件	4,722人	261件	4,492人	96.3%	95.1%
第4会議室	57件	592人	46件	612人	58件	1,030人	126.1%	168.3%
合計	9,044件	87,727人	8,646件	67,518人	9,000件	81,924人	104.1%	121.3%

利用の許可等についての三重県行政手続条例に基づく標準処理期間等は、「三重県立ゆめドームうえのの利用に関する要領」で定めており、要領に従って処理している。
利用、入場の制限はなかった。

2 利用料金の収入の実績

- ・利用料金収入は16,000千円を見込んでいたが、約15,300千円で約700千円の減となり、昨年度と比較して約2,900千円の減となった。
- ・平成27年3月31日までの利用料金についてはすべて納入済みである。利用料金の減免、還付は1件もなかった。

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	H25	H26		H25	H26
指定管理料	20,520,000	24,484,000	事業費	3,697,913	3,874,927
利用料金収入	18,269,420	15,358,730	管理費	54,999,139	56,897,822
その他の収入	22,067,632	23,090,019	その他の支出	2,160,000	2,160,000
合計 (a)	60,857,052	62,932,749	合計 (b)	60,857,052	62,932,749
収支差額 (a)-(b)	0	0			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	
---------	--

4 成果目標とその実績

成果目標	年間施設利用者数 107,500人 施設利用率 85.5% 競技場(火曜日昼間)利用率 47.0%
成果目標に対する実績	年間利用者数 81,924人 施設利用率 82.8% 競技場(火曜日昼間)利用率 30.1%
今後の取組方針	・利用者増を図るため、リピーターの確保及び新規利用者の獲得に向けた活動を行う。 ・自主事業についても、参加者の拡大を図れるよう内容を検討する。

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	H25	H26	
1 管理業務の実施状況	B	B	平成26年度業務計画書により、適正に管理を実施した。業務委託に関して入札を行い、管理業務のコスト低減に努めた。
2 施設の利用状況	C	C	前年度と比較し、利用者数、施設利用率も増加した。三重県のイベントが利用増に貢献している。火曜日昼間利用率は、前年度と比較し7.0ポイント増加しているが、目標と比較すると低い利用率である。利用内容としては、フットサルの利用が多い。
3 成果目標及びその実績	C	C	全項目目標を達成しなかった。特に火曜日昼間利用率については、全体の昼間利用率が低いとため、広報活動等を行い利用率を高めたい。

※評価の項目「1」の評価

「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価

「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> 施設維持管理について、適正に管理するために必要な人員配置を行い、常に良好な状態の管理業務体制の維持に努めている。 施設の利用申込については、伊賀市等のホームページ・パンフレット等で周知を行い、窓口・電話等での対応を行い、公の施設であることから、利用者への公平性に考慮し、貸館業務を行った。 施設利用状況は、夜間利用が多く、特にフットサルの利用が極めて多かった。 利用率向上のため、自主事業の啓発に伊賀市広報、ホームページを利用した。 施設をよりよい状態に管理するため、専門知識・技術を要する業務について、第三者へ委託し管理を実施した。 来年度の課題として、更なる利用率向上のために、利用者アンケートの継続実施や積極的な広報活動を実施したい。また、施設開設より10年以上経過していることから、施設及び設備の更新等を県と協議を進める。 危機管理業務については、作成した危機管理マニュアルに従い、災害時の対応に不備のないよう努めている。
--------	---

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(平成26年度分)

< 県の評価等 >

施設所管部名

地域連携部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県営鈴鹿スポーツガーデン(鈴鹿市御園町1669番地) 三重県営総合競技場(伊勢市宇治館町510番地)
指定管理者の名称等	三重県体育協会グループ 代表者 公益財団法人三重県体育協会 理事長 東地 隆司 (鈴鹿市御園町1669番地 県営鈴鹿スポーツガーデン内)
指定の期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	① 事業実施に関する業務 ② 施設等の利用の許可等に関する業務 ③ 利用料金の收受等に関する業務 ④ 施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ⑤ スポーツガーデン及び総合競技場の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	H25	H26	H25	H26	
1 管理業務の実施状況	B	B			一般利用者が施設を利用しやすいように、利用調整会議において競技団体へ協力依頼し調整を行うなど、多くの県民が利用できるよう配慮した運営を行っている。 利用者の声を聞く「ひと声カード」を常設するなどして課題の洗い出し、ニーズ把握等に繋げサービス向上に努めている。 県民が気軽にスポーツに親しむことができる施設としての機能を確保するとともに、必要な競技器具の修繕等を行い、良好な施設環境の提供に努めている。 また、利用者サービスが低下しない範囲で、節電などのコスト削減に努めている。
2 施設の利用状況	B	B			利用者数について、わずかに目標を下回ったが(両施設合計の達成率98.3%)、休業日の縮小及び営業時間の延長など、利用者サービス及び利便性の向上に努めるとともに、広報誌やフリーペーパー等のメディアを活用したPR活動や、フリーマーケット、競技場感謝フェスティバルなどの施設無料開放イベントを開催するなど、利用拡大に向けた取組を継続している。
3 成果目標及びその実績	B	B			成果目標として、施設の利用者数と大会回数を設定しているところ、利用者数についてわずかに目標を下回る結果となったが、休業日の縮小及び営業時間の延長をはじめ、競技団体等との調整による大会の開催誘致、スポーツ教室開催など利用者数及び大会回数の増加に努めており、指定管理者の自己評価として概ね妥当と認められる。

※「評価の項目」の県の評価:

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。

「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。

「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・競技団体等との利用調整、利用許可や料金收受、施設の維持管理及び修繕等に関する業務を適切に実施している。 ・また、日本赤十字社水上安全法救助員講習会等の講習会に職員を派遣し人材育成を図るなど、円滑な施設運営を実施するための体制確保に努めている。 ・サッカーゴールネット、トレーニング機器の修繕など、独自の対応を実施しており、より良好な利用環境の提供に努めている。 ・県民ニーズの高い種目を優先するなど配慮したスポーツ教室を多数開催して生涯スポーツの推進への貢献に努めている。 ・また、「ガーデンカップ大会」を開催するなど、県民がスポーツに親しめる機会の充実を図るとともに、両施設でフリーマーケットを開催し、スポーツ以外の利用促進にも努めている。 ・休業日の縮小及び営業時間の延長を行っており、利用者サービス及び利便性の向上に努めている。 ・総合的にみて、適切な指定管理業務を実施しているものと評価できるが、成果目標の達成について、引き続き利用者増に向けた取組が求められる。
--------	--

<指定管理者の評価・報告書(平成26年度分)>

指定管理者の名称:三重県体育協会グループ

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 管理運営事業の実施に関する業務

- ・管理施設を利用する競技団体等との利用調整会議を開催し、各種県大会の開催及び円滑な運営に努めた。
- ・利用規定を定め、施設及び設備の利用許可業務を適正に行った。また、利用規定は県の承認を得たうえで随時改定を行い、可能な限り利用者の要望等に応えることで利用しやすい施設の提供に努めた。
- ・業務上必要となる職員スキル向上のため、講習会の開催又は講習会への派遣を行った。
- ・円滑な施設運営を行うために、各委託事業者との連携強化を図ることを目的とした施設運営連絡会議を定期的に開催した。
- ・利用拡大を目的とした広報活動として、地元ケーブルテレビへのイベントPRのための出演、イベントチラシの市報への折込、スポーツ教室募集チラシの新聞折込、市内配布型フリーペーパーへの広告掲載などを行い施設PRに努めた。
- ・常設の「ひと声カード」やアンケートなどを通して利用者の意見要望を収集し、課題を洗い出すとともにその対応に努めた。なお、対応できない部分は対応できない理由を添えて回答を行った。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・職員の日常点検、外部委託事業者の検収を行うことで異常箇所の早期発見に努め、利用者に影響がある箇所は優先して修繕を行った。
- ・良好な施設の提供やサービス向上のため、100万円以上の修繕又は改修について県と協議を行った。
- ・大規模改修の予定や過去の修繕状況を考慮して計画的な修繕を実施した。
- ・現在の設備状況及び過去の修理状況を踏まえ、中長期的に見て修繕が必要となる箇所等を県へ報告した。
- ・収支状況を考慮しながら、必要競技器具の補充及び修繕を実施した。

③ 県施策への配慮に関する業務

- ・施設の特性を活用した大規模大会が開催できるよう各競技団体と調整を行い、大会の開催及び誘致に努めた。
- ・生涯スポーツの推進のため、主催教室(スポーツ教室)や各種大会を開催した。

【鈴鹿スポーツガーデン】

- ・スポーツ教室は366講座開催、延べ33,153名の参加があった。(25年度は313講座延べ30,002名)

- ・4施設(6種目)で児童から一般まで参加可能な「ガーデンカップ大会」を開催した。

- またシニアを対象とした「ガーデンシニア大会」及び登録サークルを対象とした「サークル交流戦」を開催した。

- ・体育館を有効に活用するため、大会予約のない土日祝日にフリーマーケットを開催し、スポーツ利用以外の利用促進を図った。

- ・小さい子どもを連れて来場された方の利便性向上として、空き部屋をキッズスペースとして提供した。

【総合競技場】

- ・スポーツ教室は88講座開催、延べ14,190名の参加があった。(25年度は85講座延べ10,773名)

- ・県民のスポーツ活動の支援と生涯スポーツの普及・振興を促進するため、ニーズの高い種目のスポーツ教室を優先して開催した。

- ・昨年度に続き、美し国三重市町対抗駅伝のゴール地点として多くの観客が来場した。

- ・事務用品などはグリーン購入商品を可能な限り選定し、購入を行った。

- ・スポーツを通じた青少年の健全育成に寄与できるとともに、競技スポーツに直接関係のない人々への周知として、フリーマーケットをはじめとする施設無料開放や体験会等の一般参加型イベントを開催し、県民がスポーツに触れる機会を提供した。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・情報公開については、公益財団法人三重県体育協会情報公開実施要領に基づき取扱っている。

- ・個人情報については、公益財団法人三重県体育協会個人情報保護実施要領に基づき個人情報の取扱を行っている。

また、個人情報保護方針のホームページへの掲載を行うとともに、教室申込書などには個人情報の取扱について明示している。各施設で保管している施設利用申請書、スポーツ教室参加者名簿、施設顧客名簿等の個人情報が記載された文書や電子データが外部へ漏洩しないように全職員で厳重に注意し、取扱っている。

- ・三重県若しくは関係機関が主催する個人情報に関する講習会へ新人スタッフを中心に派遣し、制度の正しい理解と運用ができるよう研修を行った。

⑤ その他の業務

- ・利用拡大の一環として、四日市市、三重県警などの福利厚生施設、企業運動会等の会場としての利用提携を継続実施した。

- ・地域の連携強化として、両施設が設置された各市が開催するイベント開催に協力した。

(2)施設の利用状況

スポーツガーデン

目標人数	実績人数	目標大会数	実績大会数
490,600人	488,845人	400回	399回

総合競技場

目標人数	実績人数	目標大会数	実績大会数
364,100人	350,927人	300回	322回

2 利用料金の収入の実績

指定管理施設収入	203,360,801			
内訳				
スポーツガーデン	159,812,171	総合競技場	43,548,630	
施設利用料収入	103,993,630	施設利用料収入	30,145,290	
参加料収入	41,970,245	参加料収入	7,248,000	
その他収入	13,848,296	その他収入	6,155,340	

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	H25	H26		H25	H26
指定管理料	408,421,645	382,764,821	事業費	45,731,642	45,264,994
利用料金収入	134,401,515	134,138,920	管理費	530,887,846	513,317,056
その他の収入	47,026,707	69,221,881	その他の支出	5,699,787	6,685,836
合計 (a)	589,849,867	586,125,622	合計 (b)	582,319,275	565,267,886
収支差額 (a)-(b)	7,530,592	20,857,736			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	3,565,895
内訳	
スポーツガーデン	3,517,480
総合競技場	48,415

4 成果目標とその実績

成果目標	(1) スポーツガーデン 目標利用人数 490,600人 大会数 400回 (2) 総合競技場 目標利用人数 364,100人 大会数 300回
成果目標に対する実績	(1) スポーツガーデン 利用人数 488,845人 大会数 399回 (2) 総合競技場 目標利用人数 350,927人 大会数 322回
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・全施設共通の問題点として平日午後が利用されていないケースが多いことから、空いている時間帯に主催教室を開催するなど施設の有効活用や、維持管理作業を空いている時間に行うなど状況に合わせ効率的な施設運営を行っていく。 ・雨天でも利用可能な体育館を活用したスポーツ以外のイベント企画に取り組んでいく。 ・平成30年のインターハイ及び平成33年の国民体育大会開催に向けて施設改修計画を作成し、長期整備計画として要望を行っていく。 ・隣接したスポーツマンハウス鈴鹿とさらに連携を強化し、宿泊合宿での利用者増に努めていく。 ・総合競技場として、定例団体及びトレーニングセンターの利用拡大のため、広報活動に努めるとともに、選手強化及びスポーツに親しめる施設としての運営にも努める。また、陸上競技場の改修に伴い、利用者の理解を得ることに心がけた運営に努めていく。

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	H25	H26	
1 管理業務の実施状況	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・営業時間の拡大及び休業日の縮小によって、5年連続で施設使用料が1億円を突破することができた。 ・大規模大会の円滑な開催ならびに一般利用者に可能な限り一般開放が行えるよう、利用競技団体と調整を行った。 ・利用者アンケート及び「ひと声箱」に寄せられた利用者の意見を聞き取れる体制を整備し、意見内容について対応可能な事項については早急な対応に努めた。 ・地域との連携強化のため、イベント会場として施設利用ができるよう調整を行った。
2 施設の利用状況	B	B	<p>【鈴鹿スポーツガーデン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水泳場では、スポーツマンハウス鈴鹿に宿泊合宿する県外からの利用者が増加した。 ・体育館は土日は大会利用が、平日の夕方からはフットサル利用者で大半を占めている。平日昼間の利用促進に努める。 ・庭球場での土日大会開催時に特別開場(8時～)の対応を行い、大会の運営を円滑に実施することができた。 ・サッカー・ラグビー場では平日の午後に近隣高校サッカー部の練習利用などが増加し、土日も含め19時以降の人工芝グラウンドの利用率が非常に高くなっている。 <p>【総合競技場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレーニングセンターの利用者数及び施設使用料収入が過去最高となった。
3 成果目標及びその実績	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・営業時間の拡大及び休業日の短縮等により、平成26年度はガーデンが過去最高利用者数を達成することができた。また、競技場は、夜間の体育館及びトレーニングセンターの利用が多く、施設利用料収入が増加傾向にある。

※評価の項目「1」の評価

「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価

「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>【鈴鹿スポーツガーデン】</p> <p>施設運営面では、第2期指定管理から実施している休業日の縮小及び利用時間の延長等によって利用人数は増加傾向にあり、利用者サービスの向上に効果があった。</p> <p>競技団体は、グループ代表の公益財団法人三重県体育協会に加盟する団体であることから、連携を取り合いながら調整を行うように努めた。</p> <p>施設の利用にあたっては利用調整会議を開催し効率的な利用がなされるよう調整を実施した。</p> <p>利用者アンケートによる利用者ニーズを把握したスポーツ教室を開催し利用促進、スポーツの推進に努めた。</p> <p>電気代、燃料費が高騰して施設管理費を圧迫する状況下であったが利用者サービスが低下しないよう苦慮しながらコスト削減に努めた。</p> <p>【総合競技場】</p> <p>年度ごとの成果目標である「利用者人数」、「利用料収入」について概ね目標を達成できた。</p> <p>施設の効率的な利用がされるよう、「公益財団法人三重県体育協会に加盟している競技団体及びこれまでの各利用団体に使用計画提出の案内発送」、「ホームページによる利用申し込みの案内掲載」を実施し、利用調整を行うことができた。</p> <p>日々の点検及び特殊建築物点検より、緊急性のあるものから随時修繕を行った。</p> <p>日常的に施設利用者及びスポーツ教室参加者アンケートを実施し、事業活動の向上及び施設の改善に努めた。</p> <p>利用者へのサービス向上に支障のない範囲で、各項目のコスト削減に努めた。</p>
--------	---

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(平成26年度分)

< 県の評価等 >

施設所管部名

地域連携部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県営松阪野球場(松阪市立野1370番地)
指定管理者の名称等	公益財団法人三重県体育協会 理事長 東地 隆司(鈴鹿市御園町1669番地)
指定の期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	① 施設等の利用の許可等に関する業務 ② 利用料金の收受等に関する業務 ③ 施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ④ 野球場の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	H25	H26	H25	H26	
1 管理業務の実施状況	/	B	/	/	当施設が中部台運動公園内にあるため、中部台管理事務所と公園全体の課題や日常業務の諸問題について情報共有しており、また日常的な施設・設備の点検や、芝の補修工事など良好な環境づくりに努めていると評価できる。
2 施設の利用状況	/	B	/	/	時間前の開場や閉場時間の延長などの利用者に応じた柔軟な対応や、施設を利用する競技団体等との利用調整会議を開催しており、利用者サービス及び利便性の向上に努めていると評価できる。
3 成果目標及びその実績	/	B	/	/	施設利用人数については目標を達成しているが、利用回数については目標に若干達しなかった。これは、降雨等により施設利用ができなかったことによるものである。

※「評価の項目」の県の評価：

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・競技団体等との利用調整、利用許可や料金收受、施設の維持管理及び修繕に関する業務を適切に実施している。 ・円滑な試合運営を行うために施設の開閉場時間の調整や、良好なグラウンド状態を維持するために不陸修正工事を実施する等の維持管理に努めている。 ・施設利用人数は成果目標を達成したものの、利用回数は荒天の影響もあり目標達成できなかった。土日祝日は大会等での利用が集中していることから、平日の利用について、引き続き広報活動など利用促進のための取組を行う必要がある。
--------	--

<指定管理者の評価・報告書(平成26年度分)>

指定管理者の名称:公益財団法人三重県体育協会

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

①管理運営事業の実施に関する業務

- ・管理施設を利用する競技団体等との利用調整会議を開催し、各種大会の開催及び円滑な運営に努めた。
- ・平成26年度から、本協会が当球場の指定管理者となったことから、管理運営を行うに際しての利用規程を定め、また、施設使用料についても従前の料金体制を踏襲し、施設の利用許可業務を適正に行った。また、大会の速やかな運営を支援するため、利用時間を可能な限り利用者の要望に沿った対応を行い利用しやすい施設の提供に努めた。
- ・緊急時の応急処置を速やかに行うため、職員を普通救命講習会へ参加させた。
- ・当球場は中部台運動公園内に設置されていることから、円滑な施設運営を行うため、中部台管理事務所と連携を取り、公園全体の課題や日常業務の諸問題について情報を共有し、安全な施設運営に取り組んだ。
- ・施設窓口に意見箱の設置や利用者アンケートを実施し、日常の営業時に利用者から寄せられた意見の集約を行い、すぐに対応できるものについては対処し、施設改修等対応できない部分については修繕の要望として県へ報告した。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・日常の始業前点検・設備品点検を行い、異常箇所の発見に努めた。
- ・収支状況を考慮しながら、新たに備品・用具の充実を図り、グラウンド整備等、施設環境の維持・充実に努めた。
- ・競技団体等からの要望を受け、独自整備として県の承認を得たうえで外野芝生補修工事を実施した。

③県施策への配慮に関する業務

- ・生涯スポーツの拠点施設としての役割を果たすため、中学生を対象とした野球教室を開催した。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・公益財団法人三重県体育協会情報公開実施要領を平成12年に策定しており、これに基づき対応を行っている。
- ・個人情報については、公益財団法人三重県体育協会個人情報保護実施要領を平成17年5月に策定しており、これに基づき個人情報を取扱を行っている。
また、個人情報保護方針のホームページ掲載、個人情報の取扱について明示している。施設顧客名簿等の個人情報が記載された文書や電子データが外部へ漏洩しないように職員一同で厳重に注意し、取扱を行っている。

(2)施設の利用状況

(ア)三重県営松阪野球場利用者

	指定管理者の成果目標	利用者実績
野球場	25,800人	29,692人
合計	25,800人	29,692人

(イ)三重県営松阪野球場利用回数

	指定管理者の成果目標	利用実績
野球場	135回	120回
合計	135回	120回

2 利用料金の収入の実績

平成26年度収入実績 1,341,030円

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	H25	H26		H25	H26
指定管理料		20,700,000	事業費		0
利用料金収入		1,341,030	管理費		20,400,229
その他の収入		626,882	その他の支出		534,787
合計 (a)		22,667,912	合計 (b)		20,935,016
収支差額 (a)-(b)		1,732,896			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免人数	1,280人
----------	--------

4 成果目標とその実績

成果目標	目標利用人数 25,800人 利用回数 135回
成果目標に対する実績	利用人数 29,692人 利用回数 120回
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点として学校の長期休業中を除き、平日は利用されていないことが多いことから、近隣の中・高校を中心に学校の放課後の時間帯に課外活動での利用を働きかけ、稼働を上げ行く施設運営を行いたい。 ・野球の普及活動として野球教室の充実を図るとともに、野球以外の催物についてもその実現に向けて、県レクリエーション協会及び三重こどもわかもの育成財団等関係団体に働きかける。

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	H25	H26	
1 管理業務の実施状況	/		<ul style="list-style-type: none"> ・大会の円滑な開催を支援するため、利用調整会議を行い一般開放を可能な限り行えるよう調整を図った。 ・利用者アンケート及び意見箱に寄せられた利用者の意見を聞き取れる体制を整備し、実現可能なものについてはすぐに対応し、施設改修など指定管理者として対応できないものについては県へ報告した。 ・当球場は、中部台運動公園内に設置されており、中部台管理事務所と連携を取り、公園全体の課題や日常業務について諸問題を共有し、利用者が安全な施設運営に努めた。
2 施設の利用状況	/		<ul style="list-style-type: none"> ・前指定管理者から予約業務を引き継ぎ、土・日曜日は練習や大会利用で年間スケジュールがほぼ決まっていることから、平日の利用を近隣の学校に働きかけた。 ・大会の円滑な運営を支援するため、特別開場(時間前の開場や閉館時間の延長)の対応を行い利用者への利便を図った。 ・良好なグラウンド状態を保つため、不陸修正工事を年間2回実施するとともに、通常の芝管理業務以外に東海高校野球大会等に備えるため、別途芝生の補修工事を実施した。
3 成果目標及びその実績	/		<ul style="list-style-type: none"> ・野球場利用は、当初目標とした利用者数に達成したが、利用回数は若干届かなかった。

※評価の項目「1」の評価

- 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価

- 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>従前の指定管理者から引き継ぎ、基本的には休業日や営業時間の変更等大きく変更した部分はない。大会等の運営については、スムーズな運営を支援するために、特別開場により大会の進行に協力した。</p> <p>利用人数については、実施される大会の規模等により増減は認められるものの、設定された利用者数を上回ることが出来た一方、利用回数については、天候等に左右されることもあり若干下回る結果となった。</p> <p>当球場については、唯一の県営球場であり、高校野球を始めとして、少年野球、軟式野球など県内の主要な団体の大会が集中し、ほぼ土日祝日は大会で使用することとなり、加えて6月には約1ヵ月間の不陸修正工事(2月にも実施)と芝養生により休業となるため、一般利用者へ開放する期日が限られてしまうことが難点である。</p> <p>施設管理面では開設後39年が経過し、利用団体から様々な要望が寄せられているが、通常の整備と管理では対応できない事案も生じていることから、計画的な補修・改修を実施するために県と連携強化を図りたい。</p>
--------	--

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(平成26年度分)

<県の評価等>

施設所管部名

地域連携部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県営ライフル射撃場 (津市中村町字国主谷)
指定管理者の名称等	三重県ライフル射撃協会 会長 中村 孝夫 (津市大門10番1号)
指定の期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	① 施設等の利用の許可等に関する業務 ② 利用料金の收受等に関する業務 ③ 施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ④ 射撃場の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	H25	H26	H25	H26	
1 管理業務の実施状況	B	B			施設・設備の日常・定期点検を行い、また、軽微な修繕、メンテナンス等適切な維持管理を行っている。10m射撃場の一部への除草シート及び風よけシートの設置を行うなど、利用者が安全で快適な環境で競技を行うことができるように努めていると評価できる。
2 施設の利用状況	B	B			競技会や練習会の会場として利用されている他、体験会を実施しライフル競技に接する機会を提供した。地道な広報活動により、目標値の800人を上回る利用者数を確保でき、良好な状況に達していると評価できる。
3 成果目標及びその実績	B	B			成果目標の利用者数800人に対して、利用者数869人(達成率108%)となり成果目標を達成していると評価できる。

※「評価の項目」の県の評価:

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。

「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。

「」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・競技団体等との利用調整、利用許可や料金收受、施設の維持管理及び修繕に関する業務を適切に実施した。 ・施設の提供に際しては、安全を確保するため関係法令や利用規定の遵守徹底を行った。 ・施設の維持管理においては、協会員自ら定期点検や軽微な補修を行うなど経費の削減に努めている。 その一方で、利用者への利益還元として施設・設備の修繕等を実施し、利用者サービス及び利便性の向上に努めた。 ・ビームライフル体験会を開催することによりライフル競技に親しむ機会を提供するなど利用拡大に向けた取組を行った。 ・利用者数は地道な広報活動により目標値800人を上回る869名(108.6%の達成状況)の利用があった。今後も継続して利用してもらえるよう、また新たな利用者の確保に向けた取組を充実させる必要がある。
--------	--

<指定管理者の評価・報告書(平成26年度分)>

指定管理者の名称:三重県ライフル射撃協会

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

①施設の提供に関する業務

- 施設の提供、施設の利用許可に関する業務、利用料金の収受に関する業務を実施した。
- ・施設の提供に際して、銃の管理及び安全確保について適宜指導を行った。
 - ・施設の利用許可については、利用規定を定めて使用者に提示し、適正に実施した。
 - ・利用料金の収受は、現金収受・前納により適正に行った。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- 平成26年度に実施した修繕
- ・10m射撃場 除草シートの一部設置
 - ・10m射撃場 風よけシートの一部設置
 - ・10m射撃場 標的交換機の屋根一部設置
 - ・50m射撃場 監的壕排水ポンプリレースイッチ修繕

今後必要と思われる修繕

- ・管理棟 屋根修繕
- ・10m射撃場 的枠修繕
- ・50m射撃場 標的交換機オーバーホール

③県施策への配慮に関する業務

- ・鉛害防止のため、標的交換機の弾頭処理を適正に行った。
- ・ビームライフル体験会によりライフル競技に親しむ機会を提供した。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・情報公開実施要領を定め、情報公開請求に対応できる体制を整えている。(情報公開に関する請求・対応の実績はなかった。)
- ・個人情報保護については、利用申請書等対象文書を厳重に取り扱い、保管している。

⑤その他の業務

- ・事故等の報告
特になし
- ・苦情・要望等への対応状況
特になし
- ・鉛処理への対応
水路の清掃及び清掃が行いやすい環境を維持している。

(2)施設の利用状況

- ・開場日数 170日
- ・利用申請件数 453件
- ・利用者数 869人(目標値800人に対し、108.6%の達成状況)

2 利用料金の収入の実績

平成26年度収入実績 548,150円

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	H25	H26		H25	H26
指定管理料	500,000	495,000	事業費	0	0
利用料金収入	483,800	548,150	管理費	1,112,159	953,324
その他の収入	141	80	その他の支出	0	0
合計 (a)	983,941	1,043,230	合計 (b)	1,112,159	953,324
収支差額 (a)-(b)	△ 128,218	89,906			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	0
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	施設利用者数 800人
成果目標に対する実績	施設利用者数 869人 国体開催に向け多くの選手に積極的な利用を呼びかけ、専用利用の他に個人利用件数が増え、利用者数が増加した。また、高校生の利用も若干ではあるが増加した。 利用者確保のため、ビームライフルの体験会を射撃場で開催した。
今後の取組方針	今後はホームページの内容を充実させ、広く県民に射撃場の存在をアピールし利用促進を図る。 猟友会との連携を検討し、新規利用者の獲得を目指す。 来場者を呼ぶため無料体験会場でのビラ配布、ホームページでのイベント情報発信等の広報活動を行うとともに、独自イベント開催を目指す。 ビームライフル体験会以外に射撃場に来て射撃に接することができるイベントを検討する。 定期的にビームライフル講習会を開催していく。

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	H25	H26	
1 管理業務の実施状況	B	B	開場時には軽微な修繕、メンテナンス等を随時行い、安全で快適な環境で競技できるように維持管理を行った。 10m射撃場の一部に除草シートと風よけシートを設置し、環境整備に努めた。 日常管理当番を中心に標的交換機周辺の清掃を行った。 10m射撃場の標的交換機の上に一部屋根を設置し、一層安全な利用環境整備に努めた。
2 施設の利用状況	B	B	国体開催に向け積極的な利用を呼びかけた結果、利用者数の増加につながった。 利用者に再来場の呼びかけを行うなど、地道な広報活動を行った。 今後も利用者に快適に利用してもらえるよう施設の改善に努める。
3 成果目標及びその実績	B	B	利用者数は、成果目標800人に対し、実績369人 108.6%の達成状況であった。

※評価の項目「1」の評価

- 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 業務計画を順調に実施している。
「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価

- 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」→ 当初の目標を達成している。
「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が安全快適な環境で競技できるようにするため「開場時における軽微な修繕・随時メンテナンス」、「10m射撃場の一部への除草シートと風よけシートの設置」、「標的交換機周辺の日常清掃」等、維持管理、環境整備に努めた。 ・国体開催に向け積極的な利用を呼びかけた結果、利用者数の増加につながった。 ・利用者への再来場の呼びかけを行うなど、地道な広報活動を行った。 ・利用者数は、成果目標800人に対し、869人と目標をクリアする108.6%の達成状況であった。
--------	---

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(平成26年度分)

<県の評価等>

施設所管部名

地域連携部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立熊野古道センター(尾鷲市大字向井字村島12番4)
指定管理者の名称等	特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク 理事長 花尻 薫 (尾鷲市野地町12番27号)
指定の期間	平成22年4月1日～平成27年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	(1)熊野古道の歴史、自然及び文化に関する資料の収集、保管及び展示に関する業務 (2)熊野古道及びその周辺地域に関する情報の収集及び提供に関する業務 (3)交流会、体験学習会など人及び情報の交流の促進を図る業務 (4)センターの施設の利用の許可等に関する業務 (5)センターの利用料金の收受等に関する業務 (6)センターの施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	H25	H26	H25	H26	
1 管理業務の実施状況	B	B		+	熊野古道に関する情報発信及び交流の拠点として、東紀州地域の自然、歴史、文化等の資源を有効に活用した様々な企画展や体験学習会、講座・講演会等を実施しており、評価できる。また、平成26年度は、世界遺産登録10周年に合わせた記念事業を実施するなど事業内容の充実を図ったことにより、平成25年度に比べて来館者及び事業参加者数が増加した。
2 施設の利用状況	B	B			熊野古道及び東紀州に関連する様々な交流事業や体験学習会等を企画・開催し、多くの参加者を集めて施設の有効利用を図ったことは評価できる。今後も引き続き施設稼働率を上げることが重要であり、魅力的な事業の実施や貸館施設の利用拡大に向けて、さらなる取組を行う必要がある。
3 成果目標及びその実績	B	B			成果目標の全ての項目で目標を達成した。特に利用者の満足度については98.4%と高い評価を得ている。また、各種事業の開催数及び学校連携事業数は目標を大きく上回っており、その積極的な取組姿勢は、熊野古道センターが目指す情報発信及び地域内外の人々の交流に資する取組として評価できる。

※「評価の項目」の県の評価:

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総合的な評価	<p>1 成果目標の全ての項目で目標を達成している。</p> <p>2 熊野古道や地域資源を有効活用した企画展、交流イベント、体験学習、講座・講演会などを地域及び関係機関と連携しながら数多く開催し、集客交流・情報発信拠点づくりを進めている。</p> <p>3 年間を通じてアンケート等を実施するなど、来館者のニーズの把握に努め、運営に生かしている。</p> <p>4 収入は指定管理料が主であるが、施設の貸館、体験学習会等の開催による収入の増加を図るとともに、光熱水費など経費の節約に努めている。</p> <p>5 来館者の安全・安心の確保のため、施設の日常点検を実施して維持管理するとともに、消防訓練や避難訓練等を実施している。</p> <p>6 次世代育成支援対策として、親子で楽しめる体験学習を開催するとともに、幼稚園、小中学校、高校等の見学・体験学習を積極的に受け入れている。</p> <p>7 持続可能な循環型社会の創造に向けた環境保全活動への取組のため、再生紙の利用や両面コピーの徹底など省資源に努めている。</p> <p>8 情報公開・個人情報保護について、適正に対処している。</p> <p>このように、熊野古道に関連する自然、歴史、文化等を情報発信するとともに、熊野古道やその周辺地域の資源の活用及び交流の場の提供などを行うことにより、地域の振興に寄与するというセンターの設置目的に資する運営が行われている。また、来館者サービスの向上と、施設の有効活用並びに経費縮減を図るという指定管理者制度の導入目的に沿った運営がなされている。</p> <p>引き続き、地域と連携した事業の実施等により一層効果的な管理運営を図り、事業内容の充実、来館者サービスの向上に努め、経費縮減や財政基盤の強化及び県施策の実現に向けて取り組むよう、指定管理者に対し必要な助言等を行っていく。</p>
--------	---

<指定管理者の評価・報告書(平成26年度分)>

指定管理者の名称: 特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

①センター事業の実施に関する業務

ア 情報収集・集積事業

東紀州地域及び熊野古道やその周辺の自然、歴史、文化、民俗に関連する図書・資料を収集するとともに、古文書の解読を行い、江戸時代に熊野古道を歩いた旅人の実像についての情報集積に努めた。また、東紀州地域に自生・生息する動植物等を紹介する『くまの・みち叢書(そうしょ)』の第8巻として、熊野地方に生息する哺乳類をまとめた「熊野古道の獣」を発行した。

イ 交流事業

(ア) 交流イベント

夏休み期間中に親子を対象とした「サマーフェスティバル」を実施し、「熱気球搭乗体験」や芝生広場を使っての「ミニ列車」の運行など多彩なイベントを開催した。また、新しい古道の歩き方では、この地方に残る素晴らしい古道を歩くツアーが好評を得た。他にも、公募による参加型の「熊野古道写真学校」、他団体との共催イベント「おわせ海山ツーデーウォーク」、「おわせ陶(すえ)の会作陶展」など東紀州地域内外の人々の交流を促進するイベントを多数開催し、合わせて7,842人が参加した。

(イ) 体験学習、講座・講演会

尾鷲ヒノキのシートによるひのきアート教室、相可高校の村林教諭を講師に迎えての地域の食材を使った料理教室、企画展付属の体験教室などを開催した。また、油彩で熊野古道を描く講座や、三池崇史監督スペシャルトーク、東紀州地域での生活を描いた漫画を連載中の漫画家元町夏生トークショー、小・中学校等と連携した熊野古道学習会などを開催し、合わせて2,984人が参加した。

ウ 情報発信事業

(ア) 企画展の開催

熊野古道世界遺産登録10周年記念企画展として、「熊野参詣道 伊勢路」、「海上翠舟 熊野古道を書く」などを開催し、熊野古道に関する自然、歴史、文化を紹介した。また、特別展示室では東紀州地域に関係が深い作家や資料などを取り上げ、「清水千佳子ネイチャーアート展～熊野の生きものとその仲間たち～」、濱田稔「鍛金とアクリル画の世界」展等を開催し、合わせて74,303人が入場した。

(イ) 広報誌の発行

センターで開催されるイベント等の情報をまとめた広報誌「ニュースレター」を4回発行した。

(ウ) ポスター、パンフレット等の発行

企画展示や交流事業を県内外にPRするため、ポスター及びチラシを作成した。

(エ) ホームページの更新

世界遺産登録10周年による関心の高まりを生かしてインターネットを通じ広く周知を図るため、頻りにホームページの更新を行ったほか、センター職員によるブログやツイッターを活用した情報発信にも努めた。

(オ) テレビ・ラジオでのPR

テレビ・ラジオを通じて、熊野古道センター主催の事業をPRした。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

ア 来館者に「親切」、「安全・安心」、「清潔」な施設を提供するため、施設、設備の日常・定期点検により、管理に万全を期した。また、設備の保守、警備、清掃については、外部事業者へ委託した。

イ 県からの貸付物品については、適切に管理を行った。

ウ 展示設備や映像機器、空調設備などの経年劣化による故障等修繕や浄化槽の修繕対応を行った。

③県施策への配慮に関する業務

ア 人権尊重のための取組

人権意識を向上させるため、全職員で研修を行うとともに、身体障がい者や高齢者などの来館者のサポートに努めた。

イ 男女共同参画社会実現への取組

センター職員(非常勤除く11人)のうち女性を約半数(5人)雇用するなど、男女共同参画社会実現への取組に努めた。

ウ 次世代育成支援対策への取組

子ども連れの来館者が親子で楽しめる体験学習を企画するなど親子で利用しやすい環境づくりに努めた。また、学校関係からの見学・体験学習を積極的に受け入れ、熊野古道学習会や体験教室を実施した。

エ 環境保全活動への取組

ごみの分別を行い資源のリサイクルに努めるとともに、再生紙や両面コピーの積極的利用など省資源に努めた。また、不必要な電気の消灯や冷暖房の節約など、来館者サービスの維持に配慮しながら光熱水費の節減に努めた。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

ア 情報公開実施要領の制定状況

情報公開実施要領に基づき、情報公開に対応できるよう職員に周知徹底した。なお、平成26年度中の開示請求はなかった。

イ 個人情報保護に対する取組状況

個人情報保護規定を遵守し、適正に対処した。

⑤その他の業務

該当なし。

(2) 施設の利用状況

① 施設の利用の許可

利用申請が315件あり、全て許可した。

(施設名)	(利用許可人数)	(利用許可件数)
企画展示室	0	0
映像ホール	1,045	37
会議室	581	95
和室	1,264	114
体験学習室	1,760	69
(合計)	4,650	315

② 利用を制限した事例

該当なし。

2 利用料金の収入の実績

施設の利用に係る収入額は441,955円、平成27年3月31日までの利用料金については、全て納入済みである。また、利用料の減免については3件の申請があり、全て承認した。

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	H25	H26		H25	H26
指定管理料	65,875,000	67,757,143	事業費	16,322,608	11,641,102
利用料金収入	452,140	441,955	管理費	56,372,436	61,184,710
その他の収入	4,788,792	1,763,803	その他の支出	0	0
合計 (a)	71,115,932	69,962,901	合計 (b)	72,695,044	72,825,812
収支差額 (a)-(b)	△ 1,579,112	△ 2,862,911			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	920
---------	-----

4 成果目標とその実績

成果目標	1 施設稼働率	50%		
	※算出式 = 利用日数 / 開館日数 × 100 (企画展示室、映像ホール、会議室、体験学習室、和室。内部打ち合わせ利用、映像ホールの定時上映利用を除く。)			
	2 事業参加者数	65,000人		
	3 開催事業数	91回		
	(1) 企画展示	6回		
	(2) 交流事業	85回		
	4 情報発信			
	(1) 情報誌の発行	4回		
(2) PRポスターの作成	6回			
5 国内外の世界遺産登録地等との連携事業	1回			
6 学校連携事業	10校			
7 利用者の満足度	90%			
成果目標に対する実績		(目標)	(実績)	(達成率)
	1 施設稼働率(%)	50.0	55.4	110.8%
	2 事業参加者数(人)	65,000	85,129	131.0%
	3 体験学習等開催事業数(回)			
	(1) 企画展示	6	13	216.7%
	(2) 交流事業	85	150	176.5%
	4 情報発信(回)			
	(1) 情報誌の発行	4	4	100.0%
(2) PRポスターの作成	6	14	233.3%	
5 国内外の世界遺産登録地等との連携事業(回)	1	2	200.0%	
6 学校連携事業(校)	10	25	250.0%	
7 利用者の満足度(%)	90.0	98.4	109.3%	
今後の取組方針	成果目標の全ての項目で目標を達成した。特に来館者の満足度は98.4%と高い数値であった。今後一層、来館者ニーズを把握し、事業内容の充実を図るとともに、来館者にとって親切で安全・安心な施設管理を図ることにより、来館者サービスの向上に努め、施設稼働率、事業参加者数の維持・増大に向け取り組んでいく。			

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	H25	H26	
1 管理業務の実施状況	B	B	(1) 世界遺産「熊野古道」のビジターセンターとしての役割を果たすため、熊野古道の自然、歴史、文化に関する様々な事業を実施した。また、地域の諸団体と連携した事業を展開し地域の活性化に寄与するよう努めた。 (2) ホスピタリティー向上の取組として、来館者に対する総合案内や展示説明及びコミュニケーションを積極的に行い、来館者の満足度向上に努めた。 (3) 光熱水費の節約など経費の縮減に努め、サービスの低下を防ぐため故障箇所等は即対応の姿勢で施設の点検・修理に力を注いだ。
2 施設の利用状況	B	B	(1) 「おわせ海・山ツデーウォーク」の共催や「おわせ陶の会作陶展」等の展示会及び発表会に活用されるなど、多くの団体に利用された。 (2) 貸館事業については、地域はもとより県内の各種団体等62団体から315件の利用があった。
3 成果目標及びその実績	B	B	(1) 成果目標の全ての項目で目標を達成した。平成26年度は熊野古道世界遺産登録10周年の記念すべき年でもあり、これまで以上に事業の質を高めることや、来館者に対するホスピタリティーの向上に力を注いだ結果、情報集積・発信・交流などの各分野にわたって質の高い事業を展開することができ、全ての目標数値を上回ることができた。 (2) 6年連続10万人以上の来館者を確保することができた。今後もアンケートの分析や来館者とのコミュニケーションを通して事業の質的向上や来館者サービスの向上に努める。

※評価の項目「1」の評価

- 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」→ 業務計画を順調に実施している。
- 「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。
- 「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価

- 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」→ 当初の目標を達成している。
- 「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。
- 「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>1 集客対策 熊野古道や古道周辺地域の自然、歴史、文化に関する魅力ある企画展を開催するとともに、体験学習や講座・講演会、交流イベント等の事業を実施し、来館者の確保に努めた結果、平成26年度の来館者数は対前年度比9.0%増の117,924人となり、6年連続10万人以上の来館者を確保することができた。平成26年度は熊野古道世界遺産登録10周年や高速道路の延伸を熊野古道センターの知名度を上げる絶好の機会と捉え、これまで以上に広報活動に力を入れた。また、職員が直接出向いてメディア関係者や地域内外の人にPRを行うとともに、奈良県・和歌山県の関係機関とも連携することで、集客の増加を図った。</p> <p>2 地域内外の人々との交流の促進 「おわせ陶の会作陶展」や「おわせ海・山ツデーウォーク」など、地域の人々の利用に積極的に供したほか、地域の人々が交流ロビー等での展示会や発表会などを行ったり、各種団体が、研修や会議、発表の場として利用するなど、県内外の315件62団体の活用があった。</p> <p>3 適正な維持管理 来館者が快適な環境で施設を利用できるよう、日常点検や巡回を行い、危険箇所等を速やかに発見し、迅速に対処するなど施設の維持管理及び来館者の安全確保に努めた。</p> <p>4 アンケートの実施 来館者の声を運営に反映するためのアンケートを実施(2,658人から回答)し、高い満足度を得ることができた。寄せられた意見を分析し改善方法等を検討のうえ、一例として入り口が分かりにくいというご意見に対して案内表示を増やすなど、業務運営に反映した。</p> <p>5 危機管理への取組 危機管理マニュアルに基づき、緊急時に迅速に対応できるよう職員研修に励んだ。また、救急法や消火設備の操作方法研修を実施するなど危機管理意識の向上に努めた。</p> <p>6 省資源、省エネの取組 再生紙の利用や両面コピーの徹底など省資源に努めるとともに、不必要な電気の消灯や冷暖房の節約など省エネ対策に努めた。</p> <p>7 情報公開、個人情報保護への取組 「三重県情報公開条例」、「特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク情報公開実施要領」、「三重県個人情報保護条例」、「特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク個人情報保護規程」に基づき適正に対応した。また、情報公開実施要項に基づき、情報公開に対応できるよう職員に周知徹底した。</p>
--------	---

(様式2)

指定管理者が行う公の施設の管理状況全期間評価

施設所管部名: 地域連携部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立熊野古道センター(尾鷲市大字向井字村島12番4)
指定管理者の名称等	特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク 理事長 花尻 薫 (尾鷲市野地町12番27号)
指定の期間	平成22年4月1日～平成27年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	(1)熊野古道の歴史、自然及び文化に関する資料の収集、保管及び展示に関する業務 (2)熊野古道及びその周辺地域に関する情報の収集及び提供に関する業務 (3)交流会、体験学習会など人及び情報の交流の促進を図る業務 (4)センターの施設の利用の許可等に関する業務 (5)センターの利用料金の收受等に関する業務 (6)センターの施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

2 管理業務の実施状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
H22	B		熊野古道に関する情報発信及び交流の拠点として、東紀州地域の自然、歴史、文化等の資源を有効に活用した様々な企画展や体験学習会、講座・講演会等を実施している。また、閉館から平成21年度までの第1期に引き続き2期目の指定管理業務受託であったが、工夫と改善を行いながら、積極的に新たなことに挑戦する姿勢をもって業務を遂行してきたことは評価できる。経年からくる施設・機器の不具合等に対しても、迅速で柔軟な対応を行っている点については、これまでの経験が生かされている。第3期の指定管理業務の受託も決定しており、今後も適切な管理を行いながら、熊野古道や地域の魅力を発信し、人々の交流の拠点となる施設としての業務運営を期待する。
H23	B		
H24	B		
H25	B		
H26	B	+	

3 施設の利用状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
H22	B		展示室及び特別展示室では、熊野古道や地域の自然・歴史・文化等に関する様々な企画展を途切れることなく開催し、多くの来館者を集めている。また、交流イベントや体験学習、講座・講演会等を数多く企画・開催し、幅広い層の参加者を集めて施設の有効利用を図ったことは評価できる。貸館事業についても、地域の方々はもとより県内の各種団体に利用されており、リピーターにより継続的に利用されている例も見られる。さらには、交流ロビーが地域の方々によって展示会や発表会の場として活用されており、地域での施設の認知度が高まっていることは、これまでの活動が地域に受け入れられ、その有用性が浸透していることを示している。今後も引き続き、施設稼働率を上げることが重要であり、会議室、和室、体験学習室など、貸館施設の利用拡大に向け、PR等さらなる取組を期待する。
H23	B		
H24	B		
H25	B		
H26	B		

4 管理業務に関する経費の収支状況(全期間)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
指定管理料	331,257,143	事業費	76,911,609
利用料金収入	2,025,860	管理費	279,436,916
その他の収入	23,641,934	その他の支出	0
合計 (a)	356,924,937	合計 (b)	356,348,525
収支差額 (a)-(b)	576,412		

※参考

利用料金減免額	8,975
---------	-------

5 成果目標及びその実績

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間における成果目標及びその実績						
			成果目標項目	目標値	H22実績値	H23実績値	H24実績値	H25実績値	H26実績値
H22	B		1 施設稼働率(%) 算出式=利用日数/開館日数×100(内部打ち合わせ利用、映像ホールの定時上映利用を除く) (注)監査の指摘を受け計算方法を修正した	50	43.4 (映像ホール、及び会議室の内部的使用を除いた実績値)	56.1	54.4	52.5	55.4
H23	B		2 事業参加者数(人)	65,000	91,626	80,505	79,722	74,262	85,129
H24	B		3 開催事業数(回)						
H25	B		(1)企画展	6	8	7	10	10	13
H26	B		(2)交流事業	85	157	148	140	121	150
			4 情報発信(回)						
			(1)情報誌の発行	4	4	4	4	4	4
			(2)PRポスターの作成	6	9	10	9	8	14
			5 国内外の世界遺産登録地等との連携事業(回)	1	1	1	2	2	2
			6 学校連携事業(校)	10	11	17	25	17	25
			7 利用者の満足度(%)	90	98.1	97.4	98.5	98.8	98.4
全期間におけるコメント									
算出方法が異なる平成22年度の施設稼働率を除き、成果目標の全ての項目で目標を達成している。特に利用者の満足度は90%台後半と高い数値を維持している。今後より一層、来館者のニーズを把握し、サービスの向上と事業内容の充実を図るとともに、来館者にとって親切で安全・安心な施設管理に努めることにより、事業参加者数及び施設稼働率の維持・増大に向け取り組んでいく必要がある。									

6 総括評価

1 指定期間を通じてほぼ成果目標を達成している。
 2 熊野古道や地域資源を活用した企画展、交流イベント、体験学習、講座・講演会などを地域及び関係機関と連携しながら数多く開催し、集客交流・情報発信拠点づくりを積極的に進めている。
 3 年間を通じてアンケート等を実施するなど、来館者のニーズの把握に努め、運営に生かしている。
 4 収入は指定管理料が主であるが、施設の貸館、体験学習会等の開催による収入の増加を図るとともに、光熱水費など経費の節約に努めている。
 5 来館者の安全・安心の確保のため、施設の日常点検を実施して維持管理するとともに、消火訓練や避難訓練等を実施している。
 6 次世代育成支援対策として、親子で楽しめる体験学習を開催するとともに、幼稚園、小中学校、高校等の見学・体験学習を積極的に受け入れている。
 7 持続可能な循環型社会の創造に向けた環境保全活動への取組のため、再生紙の利用や両面コピーの徹底など省資源に努めている。また、情報公開・個人情報保護について、適正に対処している。

このように、熊野古道に関する自然、歴史、文化等を情報発信するとともに、熊野古道やその周辺地域の資源の活用及び交流の場の提供などを行うことにより、地域の振興に寄与するというセンターの設置目的に資する運営が行われている。また、来館者サービスの向上と、施設の有効活用並びに経費縮減を図るとい指定管理者制度の導入目的に沿った運営がなされている。

平成27年度から5年間、引き続き同じ指定管理者が管理を行っていくが、地域と連携した事業の実施等により一層効果的な管理運営を図り、事業内容の充実、来館者サービスの向上に努め、経費縮減や財政基盤の強化及び県施策の実現に向けて取り組むよう、指定管理者に対し必要な助言等を行っていく。

- ※ 「2 管理業務の実施状況」の自己評価 :
 - 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
 - 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
 - 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
 - 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。
- ※ 「3 施設の利用状況」
 「5 成果目標及びその実績」の自己評価 :
 - 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
 - 「B」 → 当初の目標を達成している。
 - 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
 - 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。
- ※ 県の評価 :
 - 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 - 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 - 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。